

4 幼稚園教育要領のねらい及び 内容の考え方と領域の編成

ねらいと内容

幼稚園教育要領に示す「ねらい」は、幼稚園教育においてはぐくみたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたものである。幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら、次第に達成に向かうものである。

「内容」は、「ねらい」を達成するために指導する事項である。幼児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものである。

内容の取扱い、幼児の発達を踏まえた指導を行うに当たって留意すべき事項である。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力がはぐくまれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であることを踏まえ、指導を行う際に考慮するものである。

各領域は、これらのねらいとその内容を幼児の発達の側面から次のように五つにまとめて示すことができる。

五つの領域

心身の健康に関する領域「健康」	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
人との関わりに関する領域「人間関係」	他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。
身近な環境との関わりに関する領域「環境」	周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
言葉の獲得に関する領域「言葉」	経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
感性と表現に関する領域「表現」	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

各領域に示している事項は、教師が幼児の生活を通して総合的に指導を行う際の視点であり、幼児の関わる環境を構成する場合の視点でもあるということができる。

その意味から、幼稚園教育における領域は、それぞれが独立した授業として展開される小学校の教科とは異なるので、領域別に教育課程を編成したり、特定の活動と結び付けて指導したりするなどの扱いをしないようにしなければならない。